

探検が原点。

「わたしはさまざまな種類の仕事を手がけてきたが、その全体をとおしての原点は、やはり青年時代から情熱をもやしつづけてきた、探検という仕事である。」



カラコラム・ヒンズークシ學術探検隊出発前の梅棹忠夫。1955年 提供・梅棹淳子

「もしこの探検という原点がなかったならば、わたしの生態学も、比較文明学も、あるいは情報論さえも、いまのような形で展開させることはなかったであろう。」

「未知のものと接したとき、つかんだときは、しびれるような喜びを感じる。わが生涯をつらぬいて、そういう未知への探求ということが、すべてや。こんなおもしろいことはない。」

第500回記念国立民族学博物館友の会講演会／梅棹忠夫生誕100年記念対談

知的生産のフロンティアの原点 探検家 梅棹忠夫を語る

2020 9.5 SAT
13:30~15:30 (開場13:00)

話者：石毛直道 国立民族学博物館 元館長・名誉教授

吉田憲司 国立民族学博物館長

ファシリテーター：飯田卓 国立民族学博物館 教授

場所：国立民族学博物館 本館講堂

参加費：無料 (定員105名／要事前申込先着順)

主催 千里文化財団 共催 国立民族学博物館



知的生産のフロンティアの原点 探検家 梅棹忠夫を語る

国立民族学博物館初代館長 梅棹忠夫は、知的生産活動において常に新領域を開拓し続けました。知的生産のフロンティアを歩きつづけた梅棹ですが、研究の根は山からはじまり、その原点は探検にあると述べています。本講演会では、探検家としての梅棹忠夫に焦点を当て、石毛直道第3代館長と吉田憲司第6代現館長の対談をとおしてその思想の源をさぐります。

プログラム

13:00 受付 ※参加票をご提示ください。

13:30 開会

開会の挨拶

中牧弘允 千里文化財団 理事長、国立民族学博物館 名誉教授

13:35 梅棹忠夫の足跡をたどる

飯田卓 国立民族学博物館 教授

13:50 対談
知的生産のフロンティアの原点
——探検家 梅棹忠夫を語る

石毛直道 国立民族学博物館 元館長・名誉教授

吉田憲司 国立民族学博物館長

ファシリテーター：飯田卓

15:00 休憩

15:10 質疑応答

15:30 終了

※プログラムは諸般の事情により変更する場合があります。予めご了承ください。

申込方法 申込フォーム、もしくは往復ハガキをお願いします。

申込開始 友の会会員 2020年8月1日(土)、一般 2020年8月7日(金)

※本人を含む2名まで。申込先着順で定員に達し次第締め切ります。

●申込フォームの場合

友の会ホームページ内の受付フォーム画面に従って必要事項をご記入ください。

<https://www.senri-f.or.jp/umesao100/>



●往復ハガキの場合

往信の宛名面	返信の文面	返信の宛名面	往信の文面
〒565-8511 国立民族学博物館友の会係 千里文化財団内 吹田市千里万博公園10番1号 国立民族学博物館3階		代表者の住所・氏名	①第500回記念友の会講演会 ②参加者氏名(ふりがな) ※本人含む2名様まで ③会員番号 ★会員のみ記入 ④住所(本人・同行者) ⑤電話番号(本人・同行者) ⑥メールアドレス(任意)

往復ハガキでの申込締切日 2020年8月20日(木) 消印有効

ご参加のみなさまへ

いただいた個人情報は本講演会および、新型コロナウイルス感染症対策に伴う情報提供にのみ使用します。新型コロナウイルス感染症の予防のため急遽予定を変更する場合があります。情報は随時友の会ホームページに掲載しますのでご確認ください。

★対談の様子は後日、友の会のホームページならびにYouTubeのみんばく友の会チャンネルで公開します！

〈登壇者〉

石毛直道 Ishige Naomichi

専門は文化人類学、食文化の比較研究。梅棹とは京都大学在学時から国立民族学博物館勤務に至るまで共に過ごす。「梅棹忠夫著作集」(全22巻)の編集委員長。第12巻『人生と学問』の編集を担当した。

吉田憲司 Yoshida Kenji

専門は博物館人類学、アフリカ研究。梅棹と同じ「北山育ち」。京都大学在学中は探検部に所属。「梅棹忠夫著作集」第16巻『山と旅』の編集を担当した。

飯田卓 Iida Taku

専門は生態人類学、視覚メディアの人類学、文化遺産の人類学。梅棹アーカイブズを管理する梅棹資料室の室長。



基地にて運転手と打ち合わせをする梅棹忠夫。京都大学アフリカ学術調査隊(1963～1964)。撮影・和崎洋一 国立民族学博物館 蔵

梅棹忠夫 Umesao Tadao(1920-2010)

1920年京都市生まれ。民族学者、比較文明学者。京都帝国大学理学部卒業、理学博士。大学では主として動物学を専攻したが、内モンゴルの学術調査を通じて民族学に転じ、アフガニスタン、東南アジア、東アフリカ、ヨーロッパなどでフィールドワークを精力的におこなう。1957年発表の「文明の生態史観」において西政文明と日本文明は、ほぼ同じあゆみで進化したという説を打ち出した。国立民族学博物館の創設に尽力し、1974年から93年まで初代館長を務め、退官後は同館顧問、名誉教授となる。著書に『モゴール族探検記』『東南アジア紀行』『文明の生態史観』『知的生産の技術』など多数。

関連書籍

友の会機関誌『季刊民族学』172号

梅棹忠夫生誕100年記念

特集「1970年、梅棹忠夫が見ていた未来」

インタビュー 加藤秀俊(聞き手・中牧弘允)

執筆 小長谷有紀/高野明彦/暦本純一/飯田卓

アクセス

●大阪モノレール.....

「万博記念公園駅」、「公園東口駅」下車徒歩約15分

●バス.....

阪急茨木市駅・JR茨木駅から「日本庭園前」下車徒歩約13分

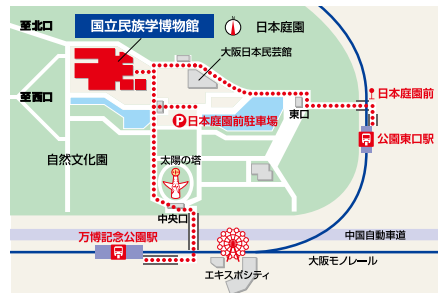
●乗用車.....

万博記念公園の駐車場(有料)をご利用ください。最寄りの「日本庭園前駐車場」から徒歩約5分

※大学生・一般の方は万博記念公園各ゲートで、当館の観覧券をお買い求めください。同園内を無料で通行できます。

※高校生以下の方は万博記念公園各ゲート有人窓口で、みんばくへ行くとをお申し出いただき、通行証をお受け取りください。

※万博記念公園をご利用になる場合は、同園入園料が必要です。



本催しは参加無料ですが、展示の観覧には別途入館料が必要です。
本館展示：大人580円/大学生250円 友の会会員は無料
※高校生以下は無料。各種割引もあります。

国立民族学博物館友の会(千里文化財団) 友の会はいつでも、どなたでもご入会いただけます。

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1 国立民族学博物館3階 千里文化財団

TEL06-6877-8893 (平日9:00-17:00)

https://www.senri-f.or.jp/minpaku_associates/

お問い合わせ